

よっ葉だより

2024年
7月15日号
No.798

～地産地消～
いのちと健康暮らしを守る
よっ葉生活協同組合

よっ葉生活協同組合

第42回通常総代会 報告

開催日時：2024年6月15日（土曜）10：00～12：00

会場：小山市立文化センター 小ホール

総代定数：120名 出席総代数：108名（本人出席27名、代理人出席0名、書面議決81名）



第1号議案 2023年事業報告承認の件...反対0保留3賛成105で可決しました。

A 食の安全を守り、安心できる食材をお届けする活動

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策 ・有機農業の推進 ・登録野菜(小・中・大)、もったいない野菜&果物の推進
- ・有機農産物の増加と農薬不使用ページ案内 ・ネオニコチノイド系農薬不使用のオーナーりんごの取り組み
- ・よっ葉PB商品の普及 ・コープ有機関東支所 ・よっ葉だより、ホームページでの広報活動 ・市民講座への参加
- ・業務関連委員会の活動(産直委員会、商品評価委員会、クッキング委員会)

B 理念を共有する仲間を増やし、生協の輪を広げる活動

- ・本部活動「よっ葉の広場～話・輪・WA」 ・農業体験の開催(計8回) ・ふれあいまつりの開催
- ・専門、地区委員会活動とサークル活動 ・新規組合員のお誘い活動 ・利用促進の取り組み ・組合員との信頼関係構築
- ・商品知識の向上と拡大スキルアップ ・地域の根差した活動(食育活動)

C 安心して暮らせる社会をつくる活動

- ・行政連携、見守り活動等 ・募金報告(各団体への送金状況) ・『イスラエル・ガザ地区人道危機救援金』の取り組み
- ・『令和6年能登半島地震』災害支援募金の取り組み ・ハンガー・フリー・ワールドの取り組み
- ・フードバンク地域施設5団体への支援 ・フードバンク茨城「子ども支援プロジェクト」への協力
- ・おたがいさま活動、コープくらしの電話相談室共同利用 ・団体協議会等への参加 ・コープ共済推進活動
- ・各県の健康づくり運動への協力 ・栃木県総合防災訓練への参加 ・さようなら原発！栃木アクション2023への協力
- ・『高校生1万人署名活動』への協力 ・各県、適格消費者団体への協力

D 理念を実現するための組織づくり

- ・働きやすい、職場環境づくり ・障がい者雇用 ・人事制度改善とジョブローテーション ・経理業務効率化
- ・個人情報の保護 ・基幹システムの改修 ・DX推進 ・諸規定の見直し ・経費の節減対策 ・未収売上代金圧縮対策
- ・施設整備の改善 ・品質管理 ・物流経費削減の取り組み ・冷凍蓄冷剤導入とドライアイス削減
- ・日生協、県連、生協ネットワーク21、協力会等の協同・連携

● 2022年住所不明組合員のみなし自由脱退手続きについて

2024年3月理事会において、定款9条(届出の義務)、10条(自由脱退)に基づいて、131名の組合員を自由脱退とみなし、事業年度末に手続きを行ないました。

※ 出資金(502,097円)については、2年間の預かり期間を設け別管理とし、期日後、雑収入処理をします。なお、後日のお申し出により住所確認ができた場合は、返金することとします。

● その他組合の運営組織の状況に関する重要な事項

「内部統制システムに関する基本方針」の各項目の整備を進めました。

2023年11月に情報開示請求手続きに関する規程策定、共通ツール「Garoon」にて周知。

2023年度決算報告、剰余金処分

項目	金額	項目	金額	2023年度の供給高は、前年対比101.6%、新規組合員は、27,087名前年対比99.9%で終了。 剰余金処分に出資配当0.2%252万円、利用分量割戻金0.2%894万円、法定準備金250万円、建設積立金1,000万円、システム開発積立金500万円、経営強化積立金300万円、災害積立金200万円となります。 次期繰越金は1,587万円となります。
供給高	46億7,180万円	特別損益	11万円	
供給剰余金	12億8,460万円	税引前当期剰余金	2,748万円	
事業経費	13億4,239万円	法人税等	986万円	
事業剰余金	-5,779万円	当期剰余金	1,762万円	
事業外収益	8,646万円	期首繰越金	3,222万円	
事業外費用	107万円	期末剰余金	4,984万円	
		任意積立金取崩額	0円	

第2号議案 2024年度事業活動計画及び予算決定の件…反対1保留2賛成105で可決しました。

よつ葉生協 「2024年度事業数値」計画

項目	2023年実績	2024年計画	前年比	項目	2023年実績	2024年計画	前年比
組合員数	27,087名	27,474名	101.4%	販売管理費	13億4,239万円	13億1,000万円	97.6%
供給高	46億7,180万円	47億2,500万円	101.2%	営業外損益	8,646万円	3,600万円	41.9%
供給剰余金	12億8,460万円	13億2,800万円	103.4%	経常剰余	2,748万円	5,200万円	192.6%
				出資金	12億6,694万円	12億9,800万円	102.5%

2024年度事業・活動方針について

活動テーマ：楽しい！美味しい！幸せ広がるよつ葉の輪

① 食の安全を守り、安心できる食材をお届けする活動

- ・有機農業、特別栽培農産物の推進 ・ネオニコチノイド系農薬不使用の取り組み ・オリジナル商品の普及
- ・商品管理体制の強化 ・放射能検査の継続 ・品質管理の強化 ・よつ葉だより・ホームページの運用
- ・業務関連委員会の活動（産直委員会、商品評価委員会、クッキング委員会、「くらら」商品取り扱い選定基準書委員会）

② 理念を共有する仲間を増やし、生協の輪を広げる活動

- ・本部活動「よつ葉の広場～話・輪・WA」 ・農業体験 ・第33回ふれあいまつりの開催 ・専門、地区委員会とサークル活動
- ・生協の輪を広げる活動 ・新規組合員拡大と商品普及活動 ・各地域に根差した活動、イベントや企画の実施
- ・新規、既存組合員との信頼関係構築 ・商品知識の向上と拡大スキルアップ
- ・利用促進の取り組み（商品の再利用率を高める、基本となる日配品の利用を高め、国産農産物を守ります）

③ 安心して暮らせる社会をつくる活動

- ・各締結協定の業務協力、情報交換会への参加 ・コープ共済の推進活動 ・支援募金の継続取り組み
- ・ハンガー・フリー・ワールドの取り組み協力 ・フードバンク活動の継続支援 ・各県の健康チャレンジへの協力
- ・脱原発運動への協力 ・地域の人に寄り添い「声掛け・見守り」活動 ・おたがいさま活動、くらしの電話相談室
- ・「栃木県高齢者運転免許証自主返納サポート事業」への協力 ・「コープSDGs行動宣言」の取り組み

④ 理念を実現するための組織づくり

- ・働きやすい、職場環境づくり ・各諸規定の見直し ・個人情報保護 ・事業収益の確保 ・未収金の回収促進
- ・冷凍蓄冷剤の運用とドライアイスの削減 ・日本生活協同組合連合会や各生協連合会との協同活動
- ・よつ葉生協業者協力会との協同 ・生協ネットワーク21への事業協力

第3号議案 定款一部改定の件【第13回理事会において「議案表題誤り」のため、第3号議案は取り下げました。】

第4号議案 役員選任の件…反対1保留1賛成103で可決しました。

役員として役員選考委員会から推薦された理事17名、監事3名について定款18条19条(役員を選任)の規定により役員選考委員会を招集し、役員選任者を整え理事会にて決議し、総代会で提案がなされ、承認されました。

No	役職	名前	No	役職	名前	No	役職	名前
1	理事長	横山 美裕紀	8	理事	山本 智恵	15	理事(新任)	篠原 桃子
2	専務理事	中田 秀治	9	理事	青木 恵美子	16	理事(新任)	和樽 奈穂美
3	常務理事	塚田 泰史	10	理事	小田切 洋子	17	理事(新任)	中村 亜希子
4	学識理事	鎌柄 克美	11	理事	石川 真子	①	監事	大森 憲子
5	学識理事	石河 不砂	12	理事	渡辺 亜紀	②	監事	田嶋 祥子
6	理事	三輪 英理子	13	理事	磯部 裕美	③	監事	中根 賢一
7	理事	堀 桃子	14	理事	国府田 恵美子			

第5号議案 役員報酬枠承認の件…反対0保留4賛成101で可決しました。

定款26条(役員報酬)により、理事および監事に対する報酬は役員報酬審議会により協議された答申の理事17名、4,000万円、監事3名150万円を理事会にて決議し、総代会に提案がなされ、可決されました。

質疑応答および意見等(事前質問含む)表記の間違いなどのご指摘等は省略させていただきました。質問内容が重複しているものは、まとめさせていただきました。

① よつ葉生協の地産・国産のものをというところに納得して安心してきました。しかし、ここ最近の日本でのネオニコ系農薬の使用量がかなり増えてきてしまい、青果物や米類に関しては情報提供と推進に努めて下さっていますが、表示義務のない加工食品について不安が増えています。せめて主成分が大豆、砂糖、小麦のものは調味料も含めてもっと品目を増やして表示していただけないでしょうか。「安心」をうたうよつ葉生協の取組みに期待します。

A 加工品のネオニコ系農薬不使用となると難しい課題かと思えます。独自で商品を作るにも価格や数量の問題も出てくるため、友好生協等と検討させていただきます。

② 徐々にではありますが有機や無農薬の野菜・果実が組合員に浸透してきているのと感じています。とあるが、その下の表では果実欄においては、企画数と注文数のどちらも昨年度を下回っているようですがこの数値で浸透してきていると感じてきていると言えるのでしょうか？

A ご指摘の通り、果物は企画数・注文数のどちらも前年度を下回っており、理由は1月～3月までメキシコ産有機バナナ(現地が雨季のため、品質低下)の供給をストップしたことによるものです。増加に向け引き続き努力致します。ただ野菜については前年度よりも大きく伸長しており、全体的所感として「組合員への浸透」という表現を用いました。

③ 小さな有機農家や地元の生産者の野菜、少量しか収穫できないものをお届けすることで生産者支援にもつながりました。とあるが、登録やさいの全てのセットにおいて組合員の利用が減少傾向にあることに注視すべきでは？生産者支援につなげる活動ということであるならば、利用推進に対してもっと注力すべきではないでしょうか？

A ご指摘の通り、「もったいない野菜・果物」に比べ「登録やさい」が前年比減少しております。利用促進に向けて取組みを推進してまいります。

④ よつ葉のPB商品は順調に推移しています。とあるが、調味料の基本中の基本でも味噌と醤油の利用点数と供給額は昨対割れしており、商品全体からは今年度に新規に企画投入されたカレールウ(甘口)の実績がなければ、利用点数および供給額も前年割れしているとも考えられる。

A ご指摘の通り、全体的に利用点数、売上ともに前年割れしておりますが、比較対象企画週2週減とマヨネーズがPB商品から外れたことが要因と捉えています。

⑤ 冷凍蓄冷剤入とドライアイス削減の件。2020年度から積極導入している冷凍蓄冷剤によりドライアイス削減の成果はどの程度あげられるのでしょうか？費用対効果を数値で示していただきたい。

年度	計画(千円)	実績(千円)	kg単価	差異(千円)
2018年度	47350	44895	75.6	
2019年度	52650	48490	85.6	
2020年度	48955	46787	85.6	2168
2021年度	40190	38472	85.6	1718
2022年度	40190	37977	87	2213
2023年度	40190	39598	89.5	592
計	169525	162834		6691

A 2020年導入投資費用(急速冷凍庫(リース)、冷凍蓄冷剤、専用コンテナ、電気工事費)
5,143,200円

2022年からドライアイスの単価が値上がりしています。量を減らしても料金は上がっていますが、経費削減は出来ております。また、今年度もドライアイス値上げ(kg99円)を要請されております。脱炭素の観点からも二酸化炭素排出の多いドライアイス削減に努めてまいります。

⑥ 生協ネットワーク 21 関東連帯協議会。昨年度の活動報告内容とほぼ同じであるが、昨年度の報告では他生協との冷凍品合同セット事業は継続協議中となっております。とのことであったが今年度の報告には進捗状況すら無かったということは、実現化することが出来なかったということでしょうか？

A 実現に向けた協議を重ねてきましたが、相手生協さんの諸事情により一旦白紙となりました。

	2023年度	2022年度	差異
供給高	4,671,803,706	4,598,718,063	73,085,643
供給原価	3,387,198,401	3,314,165,705	73,032,696
供給剰余	1,284,605,305	1,284,552,358	52,947
剰余率	27.5%	27.9%	-0.4%

左記のとおり前年度に対して、供給高は73,085,643円のプラスの実績であったのに、供給原価においても供給高プラス額とほぼ同額の73,032,696円となっていることで、供給剰余額ではほんの僅かな額である。52,947円の剰余増に留まっている。昨年同様の剰余率が確保されていれば、約2千万円程度プラスの剰余が見込めたはずである。問題は剰余率が

昨年度よりも0.4ポイント下がってしまっていることが原因だと考えられるが、中田専務の見解と対処並びに改善策についてご報告願いたい。

昨年度においても同様の質問をさせて頂き、新年度における収益性回復のためにコープ有機との関係性について契約の見直しを含め理事会で討議している。とのことでしたが、理事会討議の結果について回答並びに、コープ有機との年間取引収支についての報告もお願いします。

A ご指摘の通り2023年度の剰余率が0.4ポイント下がってしまいました。商品の相次ぐ値上げにより供給高は進捗しましたが反面、商品点数では前年比98.9%と減少しました。特価や大特価を多岐にわたり掲載したことも粗利率減少へと繋がりました。全体的に粗利率が下がっておりますので、部門担当者への注意喚起と意識改革を促します。

また、コープ有機との関係性については理事会に毎回報告し取引状況や数値を確認し協議しております。

利益追求ではなく安心・安全なものを組合員に届けることがよつ葉生協の理念となります。有機農産物の普及が形として見えるまでには数年はかかるものと予想してまいりましたので、現段での収支状況についてはご理解ください。

年度	供給点数	利用人数	一人当	供給高
2022年度	2,335,192	745,350	3.13	563,867,258
2023年度	2,418,975	746,877	3.23	578,646,772
前年比	103.6%	100.2%	103.2%	102.6%

最終的な供給高、最終利益についても前年を上回り、出資配当金と利用分量割戻金についても前年同率の0.2%を確保できたことは前向きに捉えています。

⑧ B/S(貸借対照表)の任意積立金の内訳に法定準備金があるが、出資金の1/4以上に満たない為、剰余金に該当しないと思いますが、別枠に又は任意準備金に名称変更すべきではないでしょうか？

A よつ葉生活協同組合定款第72条(法定準備金)「この組合は、出資総額の2分の1に相当する額に達するまで、毎事業年度の剰余金の10分の1に相当する額以上の金額を法定準備金として積み立てるものとする。～」に基づき処理しており、現段で名称変更も予定しておりません。

⑨ P/L(損益計算書)の事業外収益で有る雑収入の内訳について教えて下さい。分かりやすい様に明記して頂きたいのですが？

A センター運搬費、太陽光発電電気料、出向料金、広告掲載料金、その他の雑費となっております。



⑩ 来期の期首繰越剰余金に含まれる教育事業繰越金は何の教育に使われるのでしょうか？

A 「よつ葉だより」の発行費用に充当しています。

⑪ 子会社(有)よつ葉サービスの営業外収益の内訳を教えてください。

A 出向料、トラック協会補助金、保険解約金、その他の雑収入金です。

⑫ 前年度もそうですが、よつ葉生協事業数値で、営業外損益(ほぼ雑収入)が今年度実績値(86百万円)に対して来年度計画値(36百万)と半値以上乖離していますが、不自然ではないでしょうか

A P.59の営業外損益はP.41の事業外収益の計数表記となっております。本来であれば、P.73の44百万円と表記すべきです。

⑬ よつ葉生協組織図で、専務理事直轄の子会社で有る(有)よつ葉サービスと(株)コープ有機の二社がありますが、(株)コープ有機の状況や決算書は公表されないのでしょうか？

A (有)よつ葉サービスはよつ葉生協の子会社ですが、(株)コープ有機は子会社ではなく、出資している関連会社となります。ゆえに、決算書の公表はできません。

⑭ 前年度もそうですが、事業計画・予算(案)が、P/Lと所々金額が一致しません。例えば、供給高とその内訳の金額が不一致、供給剰余金が不明、総供給剰余金がP/Lの事業総剰余金と不一致、営業外利益がP/Lの事業外収益と不一致(受取利息は正しいが、雑手数料がP/Lの雑収入と不一致)ですが何故でしょうか？特に雑手数料は12.と同様で乖離し過ぎています。

A P.73のセンター運搬費41,910千円は、営業外利益86,466千円から差し引き、供給高の内訳として計上させていることが主な要因です。P.41の表記に統一すれば誤解を生じさせることはないのですが、センター運搬費も生協事業本体の売上の一部として営業利益に含める考え方もあり、二重の記載方法になっ

ています。センター運搬費を営業利益に含めるか否かで、黒字計上できるかに影響を及ぼすので含めて計算したいのですが、決算書上センター運搬費は供給高に含めず事業外収益として計上することになっております。また、P.41とP.73の2023年度実績計数が所々金額不一致の点につきましては、センター間の運搬費を営業利益に加算するかどうかで違ってくる点と、作成時点から若干の修正があったため内訳金額が合わない点があり、混乱を招き申し訳ございません。

⑮ 定款の一部改正の変更案で、理事地域区の栃木県中部は宇都宮、芳賀、市貝、茂木、鹿沼ですが、エリアが拡大して大変でなければ、真岡と益子を県南部から追加してはどうですか？

A 選任区域の見直しについては、今後の組合員数や地域動向を考慮しながら決定していきます。

⑯ 役員選任の件ですが、理事長以下略歴が具体的でなくて人物と経歴が不明で有る為、選任しようがありません。又、前年度と全く同じ文書のP.30専務会議、役員会、トップ会議は経営の舵取りをする上で重要な会議で有る事は間違いないと思いますが、役員数を10人位に減らしたらどうですか？

A 役員選任の経歴記載方法については今後検討させていただきます。役員の数については、よつ葉生活協同組合定款第18条(役員)に「理事16名以上20名以内」と規定しております。経営の舵取りをする上でも多くの方の意見を取り入れることも大切なことと考えています。

事前ご意見

① カレーやシチューは粉だけで無く、売れ残った肉や出荷出来ない規格外の野菜やもったいない野菜等を調理して、出資先や仕入れ先でもあるコープや生産者と協力して、PB商品として安価に売り出した方が良いと思う。

② 生産者の努力や苦勞を考えるならば、ネオニコ以外は、無農薬や有機野菜の出荷制限をある程度緩和して、スーパーと差別化した商品を、消費者に安価で届きやすくした方が良いと思う。

③ 特別版の賞味期限近い商品は、お財布に優しいので、どんどん提供した方が良いと思う。

④ 新たにシステム課が設置されて、受発注システム等業務が効率化されるのは良いと思うが、管理部は人事や財務以外に商品部と連携して、事業の根幹である出荷商品の品質管理に重点を置いた方が良いと思う。もしくは、商品部に組合員の商品評価委員会を組み込んで、最後に理事会で品評した方が良いと思う。

議場質問

① 書面議決書による議決が大半を占めているのであれば、実出席による議案決議は意味ないのではないかと。

A 新型コロナウイルス感染症の拡大により、書面議決書による議決方式が主となった経緯がありますが、あくまで実出席により議案審議することが重要なことと考えています。

② 経常剰余金が前年比減少している。剰余率が昨年度よりも0.4ポイント下がってきていることが原因。コープ有機との取引が要因と考えるが、取引自体見直しすること剰余率も上がり、組合員への還元も増えるのではないかと。

A 商品の相次ぐ値上げにより供給高は進捗しましたが、反面、商品点数は減少しています。特価を多用したことも粗利率減少の要因と捉えています。コープ有機との関係性については理事会にて毎回報告しており、生協理念として利益追求よりも安心・安全なものを届けることを重要視していることをご理解ください。

③ 理事の職務執行について規則に抵触し、係争中とのことだが詳細を教えてください。

A ご質問の件につきましては、係争中につき回答は控えさせていただきます。

④ 電気料金の値上げにつながる過度な原発廃止運動は、物価高に追い打ちをかけて、消費者である組合員の収入を減らすことになるのではないかと。

A 生産者を守り、安心・安全なものを組合員へ届けるためにも生協としては脱原発への姿勢を取っていることをご理解ください。

⑤ 営業外収益の計数が決算書上も大きく、センター間の輸送経費が大きいということだが詳細を教えてください。

A センター間の輸送経費で業者負担分を当生協が代行することでいただいている輸送費分を計上しています。本業の事業の一部として見ることもできますが、売上に該当する供給高と別建てとすることから営業外収益として計上しています。